

インターナショナル・ヘラルド・トリビューン デジタル・アーカイブ

International Herald Tribune Historical Archive 1887-2013

パリのアメリカ人のための新聞を創刊から電子化して提供 ヨーロッパの出来事についてのアメリカの視点

パリを本拠に発行され、国際的な読者層を誇った英字紙『インターナショナル・ヘラルド・トリビューン(IHT)』の1887年の創刊から2013年10月までを掲載するデータベースです。

1887年に米国『ニューヨーク・ヘラルド』紙のヨーロッパ版として創刊、その後1934年に『ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン(ヨーロッパ版)』、1966年にアメリカの本国が廃刊に追い込まれると、翌年に『インターナショナル・ヘラルド・トリビューン』へと紙名を再び変更し、ワシントン・ポスト社とニューヨーク・タイムズ社の合同資本のもとで成長を続けます。

創刊当初、少数で発行された新聞は、第一次大戦後パリを訪問するアメリカの実業家、文化人、旅行者が増加するに伴い発行部数を増加させます。第二次大戦後はアメリカの覇権の下、アメリカの視点からヨーロッパと世界の出来事に切り込み、パリ以外にも製作・販売拠点を拡大、**世界のアメリカ化、英語化に伴い160カ国以上で販売される真の意味でグローバルな新聞に成長**しました。

しかし2002年末にニューヨーク・タイムズ社が単独株主となるとIHT紙のアイデンティティがゆらぎはじめ、2013年10月にはついに『The International New York Times』と改名、2016年にはパリの編集部も閉鎖され、『The New York Times International Edition』となり、事実上消滅しました。本データベースは創刊から2013年10月までの記事を収録しています。



IP アドレス接続／同時アクセス無制限 価格表	FTE<5,000	5,001-15,000	15,001-30,000	30,001+
IHT Historical Archive 1887-2013 買い切り	価格は弊社までお問い合わせください			
IHT Historical Archive 1887-2013 年間購読				

※買い切りの場合の**ホスティング費用は不要**です。

※正式な見積価格は最寄りの弊社営業員に別途ご用命ください。

無料トライアル承ります！詳細は弊社までお申し付けください

日本指定代理店 **極東書店**

FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル
〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761
075(353)2093 FAX (353)2096
092(751)6956 FAX (741)0821

URL: <https://www.kyokuto-bk.co.jp>

E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp



20 世紀における世界のアメリカ化と異文化に対する フランスの態度の変化を克明に記録

19 世紀末パリで創刊された IHT は、世紀末、ベルエポックから二つの大戦を経て、米ソ冷戦、ポスト冷戦時代まで、パリからフランスとヨーロッパと世界を観察しました。当初、少数で発行された新聞は、第一次大戦後パリを訪問するアメリカの実業家、文化人、旅行者が増加するのに伴い、発行部数を増加させます。第二次大戦後はアメリカの覇権の下、アメリカの視点からヨーロッパと世界の出来事に切り込み、パリ以外にも製作・販売拠点を拡大、世界のアメリカ化および英語化に伴い、160 カ国以上で販売されるグローバルな新聞に成長しました。20 世紀前半はアメリカ人など異邦人を魅了していたフランスも、20 世紀後半には異文化に対する姿勢に変化が見られるようになります。政治の世界では、ド・ゴール時代にアメリカと距離を置いた独自外交を進める一方で、文化のレベルでは、マクドナルドに代表されるアメリカ文化が日常生活のありふれた光景になります。IHT は、20 世紀における世界のアメリカ化と異文化に対するフランスの態度の変化を克明に記録しています。

多彩なコラムや執筆陣

IHT の歴史には、多彩なコラムや執筆陣が名を残しています。戦間期のセーヌ左岸カルチュ・ラタンを紹介した “In the Latin Quarter” や “Latin Quarter Glimpses”、エリオット・ポール (Elliott Paul) やユーゲン・ジョラス (Eugene Jolas) など戦間期パリのアメリカ人作家、大西洋単独飛行でパリに降り立った直後のリンドバークへの単独インタビューに成功し、30 年代はドイツ、イタリア、ソ連からファシズムや共産主義の動向を伝え、ドイツのソ連侵攻を予測した伝説的特派員ラルフ・バーンズ (Ralph Barnes)、80 年代以降多くの時評を寄せたヘンリー・キンシンジャー、1960 年代以降、40 年以上に亘りコラムの連載を続けたウィリアム・パフ (William Pfaff)、“Paris After Dark” や “Art Buchwald” で半世紀以上に亘りユーモア溢れるコラムを書き続けたアート・バックウォルド (Art Buchwald)、“Our Times in Rhyme” で韻文形式による時評という新境地を開拓した詩人ポーリン・クロフォード (Pauline Avery Crawford)、スポーツ関係のコラムニストで劇作家ユーゲン・オニールを魅了したスパロー・ロバートソン (Sparrow Robertson)、“Today and Tomorrow” のコラムを長期連載したウォルター・リップマン (Walter Lippmann)、“Inside Europe” などインサイド物で名高いジョン・ガンサー (John Gunther)、30 年代後半 “On the Record” で時事問題にシャープに切り込んだドロシー・トンプソン (Dorothy Thompson)、30 年代のスタヴィスキ疑獄事件に端を発するパリの暴動を間近で観察したウィリアム・シャイラー (William Shirer)、ロバート・キャパとともにソ連を訪問し、探訪記を寄稿したジョン・スタインベック、ラジオやテレビなどメディア批評の分野で一時代を築いたジョン・クロスビー (John Crosby)、ファッションを批判的に取り上げ、ファッション批評の新境地を開拓したアイベイ・ドーシー (Hébé Dorsey) 等、多彩な執筆陣が健筆を揮いました。

IHT は、1930 年代ファシズムに有和的な論調に傾きました。しかし、紙面がファシズム一色に染まったわけではなく、バーンズやトンプソンやシャイラーなど、反ファシズムの立場のコラムも同時に掲載されました。この時代の IHT には、共産主義に対する防波堤としての役割をファシズムに期待する世論と、ファシズムにおける自由の抑圧を批判する世論が相克した時代状況がそのまま映し出されています。



伝説的特派員ラルフ・バーンズによる
リンドバークの単独インタビュー
(May 22, 1927)

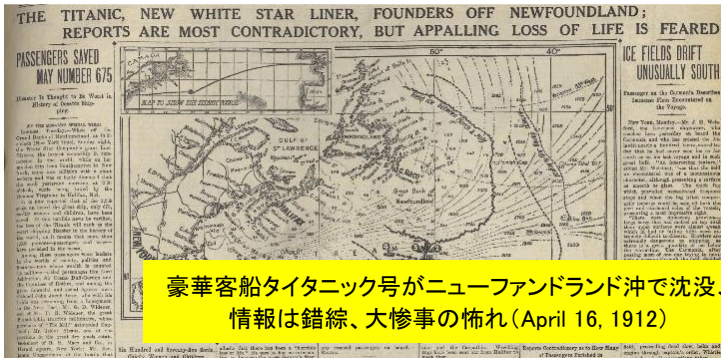
バナー・ヘッドラインと写真を用いて 映像の時代に相応しい紙面づくりを追求

『ニューヨーク・ヘラルド』国際版時代の IHT を見てすぐに目に止まるのは、その大胆な紙面作りです。『ザ・タイムズ』、『テレグラフ』、『デイリー・メール』など、同時代のイギリスの新聞が一面に広告を掲載していた時代に、IHT は一面にバナー・ヘッドラインを使い、トップニュースが一目でわかるような紙面作りを行いました。20 世紀初頭、映画の到来を前に、新聞人たちは新しい紙面作りを追求しました。大胆な見出しと写真を多用した IHT の紙面は、映像の時代 20 世紀に相応しい新聞の見本ともいえるものであり、国際的な新聞というイメージも手伝い、映画人によっても注目され、しばしば映画の中で使われてきました。



第一次世界大戦の契機となる
オーストリア皇太子夫妻暗殺の記事
(June 29, 1914)

IHT の記事にみる 19 世紀末から現代の出来事



豪華客船タイタニック号がニューファンドランド沖で沈没、情報は錯綜、大惨事の恐れ (April 16, 1912)



オランダのダンサー、マタ・ハリはスパイ活動と敵国への内通により処刑された (October 16, 1917)



ガーシュインがニューヨーク・フィルと『パリのアメリカ人』を演奏して指揮者デビュー (September 9, 1929)



ナチスドイツの無条件降伏 (May 8, 1945)



エリザベス 2 世の戴冠式 (June 3, 1953)



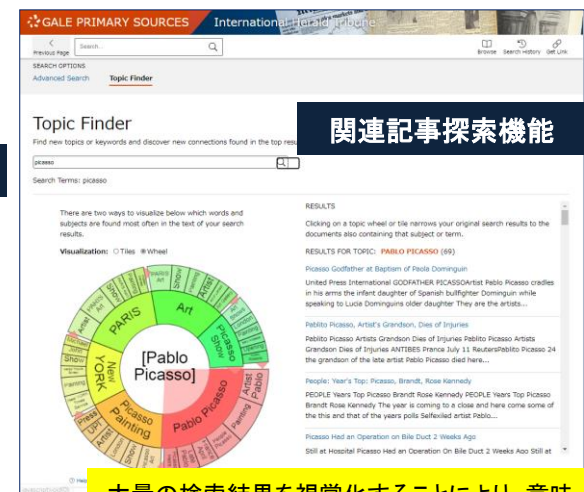
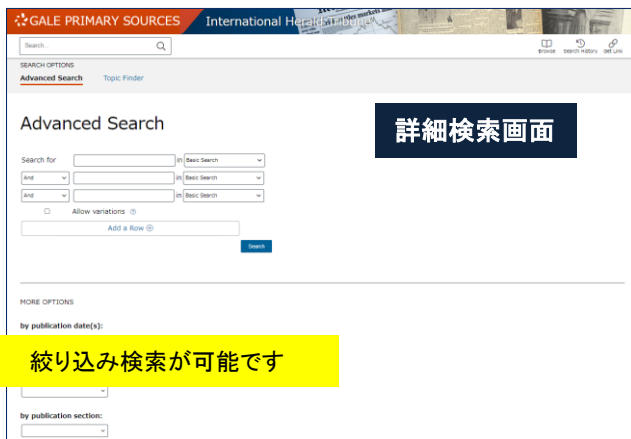
「パリ 5 月革命」学生の反乱は労働者のゼネストに発展、ド・ゴール退陣の契機に (May 25-26, 1968)



「マクドナルド、フランスに一号店」フランスの典型的な郊外の町クレイユにオープン (September 6, 1972)



フランス革命 200 周年パレード (July 15-16, 1989)



無料トライアル承ります！詳細は弊社までお申し付けください



株式会社 極東書店

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル

TEL: 03-3265-7531 FAX: 03-3556-3761 http://www.kyokuto-bk.co.jp E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp